NEWS & TOPICS

現代ビジネス科
『住み続けられるまちづくり』を担う宮崎の若者育成プロジェクトⅡ

宮崎市地元とつながる人材育成支援事業の4年連続の採択を受け、『「住み続けられるまちづくり」を担う宮崎の若者育成プロジェクトⅡ』に取組みました。

（報告書の一部抜粋）
現代ビジネス科1年　池田遥香
私は、地元で働きたいと考えています。今回の老舗応援チームでの活動で、より地元の温かさを知り、もっと若者ならではの視点で地域を盛り上げられる活動に取り組んでみたいと感じることができたのが、理由の一つでもあります。コロナ禍の影響で人との関わりが減ってしまった印象がありますが、この状況を逆手にとってリモートワークが当たり前になった今、どこでも誰でも社会貢献ができると思います。そのような技術を活用して地元に残って、その場所だけに留まらず、自分の住む場所も、足を簡単に運べない県内のあちこちでも、地域貢献ができる活動をしていきたいと感じました。

現代ビジネス科2年　守山宥成
宮崎で活躍する老舗について掘り下げていったことで、『長く愛される企業とは』、『その一員であることとは』について深く考えるきっかけとなりました。他にも、グループ活動を通して人とのかかわりの大切さや同じ目的に向かって物事を進めていくことの難しさを昨年以上に感じました。これらをすべて糧として、常に進歩していきたいと思います。

みやざき老舗応援チームの作品『高評価』ボタンをお願いします！

大盛うどん　金子醸造　金丸慶蔵商店　バッグのあつた　らくがき

動画制作

zoomにてビジネスフォーラム

保育科・特別講演会
「発達に沿ったおもちゃと絵本の与え方」

講師：藤田　篤 先生
（日本知育玩具協会 代表理事）

保育科　講師　小川 美由紀

これから保育士・幼稚園教諭・保育教諭を目指していく保育科の学生約400名を対象に、藤田篤先生よりご講演いただきました。よいおもちゃとは何か、そしておもちゃの特性や使い方・遊び方を、まずは保育者を目指す皆さんに知ってほしい、実体験してほしい…そんな藤田先生の熱いお話を、保育科の学生は真剣な眼差しで聴講していました。

この講演会に臨むにあたって、保育科1・2年生は事前に知育玩具で遊ぶ体験をしました。講演会で自分が遊んだおもちゃが紹介されると、「あ！これ…」と思わず声を出して藤田先生のおもちゃの解説に聞き入る姿がありました。

講演会の後半には、棋士の藤井聡太さんが幼少期に遊んだ「キュボロ」という積み木での遊び方を実際に見せていただきました。このキュボロは、溝のついた立方体を組み合わせて外からは見えない玉の道を作っていくおもちゃで、一手、二手、三手先のさらに先の一手を読んで構成していくことが必要です。そのため、論理的思考力や集中力を大いに養うことができるおもちゃと言われています。現在の藤井聡太さんの活躍を見れば、納得です。他にも様々なおもちゃの遊び方と、絵本の読み聞かせについて、ステージ上で実演いただきました。これから保育者を目指す学生にとって心に残る、大変有り難い機会となりました。

実演を交えながら講演する藤田先生

真剣な眼差しで聴講する学生

キュボロ

卒業式・修了式のご案内

令和3年度卒業証書・学位記並びに修了証書授与式を下記のとおり執り行います。
期日：令和4年3月18日(金)　場所：宮崎市民文化ホール
新型コロナウイルス感染拡大防止のため、出席者は卒業生・修了生につき保護者1名のみといたします。

令和3年度　主は支出

新型コロナ感染症防止に伴い、テーブルパーテーションやワクチン接種のための支出を行いました。

令和3年度　宮崎学園の財務状況等を本学ホームページに掲載しています。

現在の就職状況

就職・進学支援課　田村　広美

全国的に就職率は好転していますが、本学学生の就職内定率も現時点で97%となりました。今年度も就職に繋がる実習は思うようにできない状況でしたが、8割以上の学生が昨年末までに内定をいただきました。なお、2年生の就職活動が終盤を迎える中、現代ビジネス科1年生の就職活動が3月1日から始まります。コロナの感染拡大状況も気になるところですが、春休み期間を十分に活用し、企業訪問や説明会への参加、筆記試験対策等の各自の積極的な就職活動を行い、採用試験へと繋げてほしいと思います。

発行：宮崎学園短期大学後援会　　発行責任者：岩﨑 美由紀

宮崎学園短期大学後援会　Miyazaki Gakuen Junior College

後援会だより

2022 March
46

2021 秋の忍ヶ丘祭

過去の常識を改める

学　長　宗和 太郎

未知への適応

「先が見えない」「落ち着くことのない」「急激で」「複雑な」変化の未来。

コロナ禍はまさにこれからの未来を暗示する前哨戦のようだ。あっという間の事態に世界中の人々が右往左往している。

人は、訳の分からない事態が苦手である。過去の経験や馴染みやすい説明にすがりやすい。「私はインフルエンザに罹ったことがないから大丈夫だ」と根拠のない自信を示した人もいれば、「夏になればインフルエンザと同じで収まる」と言った人もいた。

災いなる成功体験

『失敗の本質』という日本軍の敗北を研究している本がある。帝国陸軍は西南、日清、日露の戦争の勝利から白兵銃剣主義を信奉し、帝国海軍は日本海海戦での勝利から艦隊決戦主義を信奉し、新たな事態への対応ができなかった。

成功体験は善くも悪くも将来に影響を与える。自信は困難への挑戦に不可欠であるが、状況を見誤る元にもなる。人生をそれなりに生きてきた大人は、時に過去の常識を捨てなければならないことがある。Unlearning（学習棄却）と呼ばれる。今、捨て去らねばならない過去の常識とは何か？

叩かれて育つ

昭和の時代、軍隊のみならず家庭や学校においても、痛い思いをさせて覚えさせることが頻繁にあった。確かにげんこつを加えれば、相手は言うことを聞くようになる。しかしそれは、強い者の言いなりになっているだけである。自分で何が良いかを考えさせていない。正解が見えない中で、強い者の言うとおりにさせるのではなく、子どもに考えさせ人と対話できる力をつけさせることが大切である。

一方的に叩かれ虐げられた痛みは負の連鎖を生み、誰かへの差別や虐待、DVにつながっていく。叩いた人も含めて誰もが安心し共生できる社会を作ることにはならない。

学歴は地頭、学歴が人生を作る

昭和の時代においては、学力（認知能力）が社会の成長を牽引できると思われた。しかし先が見えない時代にあっては、過去の知識や技能だけでは対処できない。現実の問題を人々と協力して解決していける力が必要となる。それは学力とは異なる非認知能力と呼ばれる様々な力である。誠実さ、粘り強さ、自己統制力、共感力、自尊感情、打たれ強さ等々が挙げられる。これらは詰め込み学習では得られない。

今世界中が先を争って、非認知能力を育む幼児教育・保育を追い求め、大学教育にも質の転換を促している。大学入試が改まるのも、それで小中高の教育を変えるためだ。

過ちて改めず、是を過ちと謂う（論語）

大人のみならず若者も少ない人生経験で思い込み、決めつけにはまっていることがある。思い込みを開くのは、読書も含めて人との対話だと思う。

輝ける忍ヶ丘（学生の成長）

保育科　向かい風をうけ、高く

保育科長
泰田 久史

2022年現在、保育をめぐる環境はけっして順風満帆とはいえない状況にあります。制度改革、少子化、新型コロナ対策…等々、激動の中にあると言ってもいいかもしれません。人間は大きな転換点に立つと変化することが怖くなり、縮こまってしまいたくなります。しかし、向かい風が強いほど高く飛ぶチャンスでもあるのです。保育科はこれまでの土台を大事にしながら、取得可能な資格の増設や一流の講師を招いての講演会など新たな取り組みを始めています。鳥たちが翼を広げ、高く舞い上がるように、保育科も時代の向かい風をしっかりと受けとめ、視界を広く取りながら飛躍したいと思います。

保育科2年
藤澤 ひなた

2年間の学生生活を終えて

1日1日が充実した濃い2年間でした。私は幼少期の幼稚園の先生の姿、そして母親が子どもに関わる仕事をしていたことから保育者に憧れて宮短に入学を決心しました。輝かしい学生生活を夢見て、保育者になるため日々頑張ろうと思っていた矢先、コロナ禍により同じクラスの友達とも会えず遠隔授業に変更、実習も中止や学内実施になりました。画面越しでの授業が続き不安が募るばかりでしたが、そんな状況でも先生方が最善を尽くして授業を計画して下さったことで技能や知識の習得ができ、同じ目標を持つ仲間がいたから乗り越えられたのだと思います。また、私はピアノも初心者であり商業系の高校だった為保育とは無縁の生活を送っていました。初めは不安だったことも日々の授業で身につけた様々な知識を生かし、実習を経験してきたことで今では自分に自信を持てるようにもなりました。この2年間うまくいくことばかりではなく、時には挫折しそうにもなりました。しかし実習先で出会った子ども達と関わり、笑顔を見るだけでその気持ちは晴れ、自分の頑張る源になりました。そしてコロナ禍で充実した濃い2年間を送れたのは先生方、仲間のおかげだと思います。これからも子どもが好きだという気持ち、周りの人への感謝の気持ちは忘れず、これまで学んだ知識、技能・技術を向上し続けられる保育者でいれるよう精進したいです。

専攻科（福祉専攻）　保育科＋専攻科、この先に広がる未来の可能性

専攻科（福祉専攻）主任
桑迫 信子

長びく新型コロナウィルス感染症の影響を受け、自由で健康な暮らしを願う日々です。人々が触れあい歓喜する社会活動の多くをウィルスは奪い、代わりにそれらがとても大切なことだったと気づかせました。また、健康管理には環境衛生と情報が重要であるというナイチンゲールの教えに立ち戻らせ、手洗い等の「基本的ケア」を誰もが実践しています。介護福祉士を養成する専攻科では、これらのウィルス対策から多くのことを学ぶと共に、浮き彫りとなった高齢者福祉に対し教育機関としての使命をさらに強く感じているところです。さて今専攻科が関心を寄せているのは、2021年6月に成立した「医療的ケア児支援法」で、医療的ケア児に対する各自治体の保育支援が動き始めたことです。専攻科が1年間の履修で国家試験受験資格が得られるのは、条件として保育士資格を有することにあります。併せて、制度改正に伴い履修科目に「医療的ケア」が加えられ（本学2015年度追加）痰の吸引や経管栄養の介助を学んでいます。専攻科創設24年の歴史に深く感じ入ると共に、専攻科修了生の可能性の広がりを期待しているところです。これからも多くの経験を力に変え、福祉専門職者として高齢者施設や保育所および障がい児（者）施設、病院などそれぞれに活躍してくれることを心より願っています。

専攻科（福祉専攻）
神田 葵

自分が成長できたと実感できる1年間

専攻科に進学するまでの私は、高齢者や障がい者の困りごとの全てを手助けすることが介護福祉士の仕事だと思っていました。しかし、介護福祉士の役割を学び実習で直接利用者と関わるうちに、その人の残存機能やニーズを評価することの意義と、利用者の自立を意識して関わることの重要性を知り考えが変わっていきました。そして、介護福祉士の専門的な生活支援で利用者の「できること」が少しずつ増え、それを共に喜び合うことによりお互いの心が豊かになると感じるようになりました。今後の福祉社会にとって必要なことは、高齢者や障がいのある人など誰もが自由に活動できることや、自分で「できること」が増える福祉サービスの充実及び環境作りだと思います。また、環境要因のひとつである私達一人ひとりが意識を変えることで、社会全体が暮らしやすくなり、お互いに認め合うことでそれぞれの自信や存在意義につながるのではないかと思います。これから先もこの学びを大切にし、広い視野をもつことを心がけたいと思います。

現代ビジネス科　新生「現ビ」の幕開け

現代ビジネス科長
矢田 憲太朗

昨年度よりコロナ禍が続き、今年３月卒業の２年生は、数度にわたる遠隔授業実施期間をはじめ、登学しての対面授業実施期間を含めても、入学後一度も交流センター内の学食での券売機を使って大学定食を食べる機会もなく、何かと不自由だった２年間の短大生活を終えようとしております。しかしながら、このような厳しい学習環境の中でも現代ビジネス科の学生達は逞しく成長し、自身の将来の人生設計を自ら描き、自分自身の強みを生かすことのできる進路先を選び、学び舎を巣立とうとしております。また、１年生も、資格取得等の専門学習に励むと共に、学科が力を入れているキャリア教育などで自分自身の良さや強みに気付き、学友会活動やオープンキャンパス係員など様々な大学行事にも積極的に参加し、専門力と社会人基礎力を着実に身につけております。このように、現在の教育内容でも、学生達は２年間で大きく成長し、将来の地域社会を支える有意な人材として育ってきておりますが、来年度より、学生一人ひとりのニーズに対応した、より柔軟で幅広い、且つ高度な専門性を身につけることのできる教育課程へと変更し、新生現ビとして生まれ変わります。大きな変更点は、これまでビジネスコース、医療事務・医療秘書コースの２つのコース毎に学生募集を行っていましたが、現代ビジネス科でのくくり募集に変え、学生は４月の入学後に、十分なコース説明と自身の興味関心を軸に、「実践ビジネスコース」、「司書・メディアコミュニケーションコース」、「メディカル秘書コース」、「大学編入コース」の４つのコースから希望のコースを選択します。また、１年生の前期終了後に進路希望や興味関心に変化が生じた場合は、コース変更も認めます。また、この改編に伴い、専門科目等も新設し、より実践的で、高度な専門性を身につけた人材教育の充実を図ってまいります。

現代ビジネス科［定員50名］

令和4年度入学生から、現代ビジネス科は変わります

現在のビジネスコース、医療事務・医療秘書コースのコース毎の募集をくくり募集に変え、入学前教育、入学後の面談等で、右記の4つのコース選択をします。なお、1年前期終了時点等でのコース変更も認めます。

現代ビジネス科
ビジネスコース１年
山元 悠華

成長したこと

私にとって、企業実習（インターンシップ）に参加したことは、大きな成長につながりました。自分に自信を持つためには、どうすればいいのか悩んでいたところ、インターンシップ先の社長さんに「失敗を恐れないでください。失敗をしない人なんていないんですから。」と温かい言葉をかけてくださいました。社長さんの言葉を聞いてから、授業でのグループワークでは、自分の口でしっかりと意見を述べることができるように自分から話しかけていきました。またプレゼンテーションでの発表の際も、自分の言葉ではっきりと人前で話すことを意識しました。私はこの一年間の授業やインターンシップの経験で、自分の考えに自信をもって話すことができるようになりました。これからもこのような経験を活かして、何事にも積極的に取組んでいきたいです。

現代ビジネス科
医療事務・医療秘書コース１年
花岡 みづき

大学生活と一人暮らしの両立

私は大学入学後、親元を離れて一人暮らしをすると決めていました。家族からも、一人暮らしは将来良い経験になると賛成してくれました。4月から一人暮らしをスタートしましたが、大学という新しい環境に慣れるのと同時に、家事もこなさなければなりません。息をつく暇もなく、苦しかったこともありました。そんな中で学んだのは、「家事は8割できれば十分」だということです。今までは、何でもミスなく完璧にしなくてはと思っていました。しかし、お昼は手作りから学食を利用するようにするなど、疲れて頑張れないと思ったら、サービスや周りの力を借りるようにしました。次第に勉強時間を確保することもできるようになりました。良い友人や先生方にも恵まれ、楽しい大学生活を送っています。もうすぐ1年経ちますが、大学生活と一人暮らしの両立で学んだ多くの気付きは、社会人になるにあたってとても良い経験になっていると感じています。今後も、有意義に過ごし、楽しい思い出をいっぱい作っていきたいと思っています。